

27 岩手県警 「心が重症」1割

12月4日

警官ら、震災後ストレス

東日本大震災後、岩手県警が職員の不眠などを引き起こす「惨事ストレス」について調べたところ、1割が専門医の診察を必要とする重症だった。捜索にあたった沿岸部の警察官に目立ち、専門家は心のケアの必要性を指摘している。

震災後、県警は体調不良を訴えた沿岸勤務の68人に臨床心理士を派遣。警察署員らは「家族を亡くした」「目の前で人が波にのまれた」「失った同僚が夢に出る」などと答えたという。同時に県警の専門医がチェックシートを作り、昨年4月に当時の全職員2612人に配布。2462人の回答を得た。

「睡眠中に目が覚める」「怒りっぽくなっている」など32項目に5段階で回答してもらったと、237人が直ちに診察が必要な「重症な惨事ストレス」と判定された。このうち内陸勤務は

185人(回答2132人)、沿岸勤務は52人(同330人)で、沿岸勤務の割合が1.8倍だった。

昨年9月の第2回調査では、回答した2492人のうち重症は87人。近く3回目の調査をする予定で、菊池晃光・県警厚生課長は「中長期的にケアしていきたい」と話す。(国吉美香)